

令和6年度 奈良県立奈良高等学校 学校評価計画表(総括表)

年度	令和6年度(中期計画3年目・最終年度)
本校の使命(スクール・ミッション)	「自主創造」の学びを通して、日本、世界のよりよい未来に貢献していくグローバルリーダーの育成
年度重点目標	○授業等の改善・充実・・・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業や評価等の研究・開発・蓄積に努め共有化を図る ○豊かな人間性と実践力の育成・・・授業や特別活動等、幅広い経験を通して人間力を高め、グローバルリーダーに相応しい態度と実践力を育成する ○生徒の自己実現を図る進路目標の設定と達成に向けた取組を支援・・・教育活動全体をとおして、自他の個性を尊重し、主体的に進路選択できる能力・態度を育む教育を実践する

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針(スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針 本校が求める生徒像(アドミッション・ポリシー)	「自主創造」型自己変革の追求 高い理想と目標に向けて、絶えず知性を磨き、自主的な判断と行動を通して、真摯に人格の成長を目指す生徒を求めます。 ①積極的な勉強や課外活動を通して、豊かな知性の創造を目指していくような、明るく豊かな活力のある生徒 ②人間としての在り方・生き方を自覚し、堅い意志をもって自らの行動を律する主体性を持った生徒 ③自由と責任を自覚するとともに、人間尊重の精神を基盤として、多くの人と敬愛と信頼に満ちた人間関係を築くことができる生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針 本校が展開する教育活動(カリキュラム・ポリシー)	主体的・未来志向型の学び 未来を生きる生徒の能力や個性を最大限に伸ばすため、「自主創造」の学びを通して、深い思考力・豊かな知識の涵養を図る教育を創造します。 ①主体的・探究的な学習により、生徒の高い理想と多様な未来につながるような確かな資質・能力を身に付けることができる教育課程を編成します。 ②科学的思考力に企画提案力・マネジメント力を付加していく教育プログラムにより、科学技術系グローバルリーダーを育成します。 ③生徒が「自主創造」の精神を発揮しながら、笑顔が輝く学校生活を実現していくような教育内容を創造する。また、地域との双方向の連携を構築する中で、地域から世界に発展的に貢献していく人材の育成します。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 本校を卒業するまでに身に付けさせる力(グラデュエーション・ポリシー)	次世代型competenceの育成 「自主創造」の精神を承継し、「自ら学び、自ら考え、自ら開拓する」姿勢を身に付け、日本、世界のよりよい未来に貢献していく人材を育成します。 ①豊かな知識、論理的・科学的思考力及び客観的判断力を基盤として、物事を様々な角度から多面的に捉え、本質を見極める力を育成します。 ②人の優しさ、心の痛みに気付き、そこから他人への感謝や相手を気遣うような「繊細で温かい心」を育てます。 ③国籍、文化の違いを超えて物事を捉え、日本や世界のよりよい未来の実現に主体的に貢献していくグローバルリーダーを育成します。

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和6年度末の目標値等(C)	令和6年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1 こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	事故・けがを予防する能力や態度の育成	日本スポーツ振興センターへの災害共済給付申請数を20%削減	日本スポーツ振興センターへの災害共済給付申請数を20%削減				
	自ら健康の保持増進を図る意欲の向上	定期健康診断後の受診率20%向上	定期健康診断後の受診率20%向上				
	体力の向上	新体力テストで、全種目全国平均を上回る	新体力テストで、全種目全国平均を上回る				
2 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	教育相談活動の推進	全ての教員が必ずスクールカウンセリング研修会やスクールソーシャルワーカー等の事例検討会、又は生徒理解にかかわる研修の機会に参加	全ての教員が必ずスクールカウンセリング研修会やスクールソーシャルワーカー等の事例検討会、又は生徒理解にかかわる研修の機会に参加				
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	授業アンケートにおいて、「授業を受けて、力がついたり、知識が豊かになったと実感できる。」と回答する生徒の割合が70%以上	授業アンケートにおいて、「授業を受けて、力がついたり、知識が豊かになったと実感できる。」と回答する生徒の割合が70%以上				
		課題研究の個人用ルーブリックにおける課題解決力・科学的探究力の観点で、「十分満足できるレベル」(複合的なアプローチを行う。複数の科目領域の手法を用いる。継続的に探究活動を進展させる。)以上の評価をする生徒の割合が70%以上	課題研究の個人用ルーブリックにおける課題解決力・科学的探究力の観点で、「十分満足できるレベル」(複合的なアプローチを行う。複数の科目領域の手法を用いる。継続的に探究活動を進展させる。)以上の評価をする生徒の割合が70%以上				
		授業交流・公開授業において、教科・科目の枠を越えて、授業見学や公開授業を各教科で実施	授業交流・公開授業において、教科・科目の枠を越えて、授業見学や公開授業を各教科で実施				
	学習意欲の向上	授業アンケートにおいて、「考えたり、活動したり、問題を解いたりする機会が授業中にほぼよく確保されている。」と回答する生徒の割合が70%以上	授業アンケートにおいて、「考えたり、活動したり、問題を解いたりする機会が授業中にほぼよく確保されている。」と回答する生徒の割合が70%以上				
		課題研究の個人用ルーブリックにおける主体性・主体的な活動の観点で、「十分満足できるレベル」(常に積極的に期待以上に取り組む。周囲に前向きな影響を及ぼす。)以上の評価をする生徒の割合が70%以上	課題研究の個人用ルーブリックにおける主体性・主体的な活動の観点で、「十分満足できるレベル」(常に積極的に期待以上に取り組む。周囲に前向きな影響を及ぼす。)以上の評価をする生徒の割合が70%以上				
	深い学びの実現を見据えた文化講座の充実	生徒の知的好奇心を刺激するような内容のものを提供し、満足したと回答する生徒の割合が80%以上。	生徒の知的好奇心を刺激するような内容のものを提供し、満足したと回答する生徒の割合が80%以上。				
	図書貸し出し冊数の安定	年間貸し出し冊数の総計が2,000冊を越えるようにする。	年間貸し出し冊数の総計が2,000冊を越えるようにする。				
	ICT機器を活用した教育の推進	ICTの活用など探究的な授業を教員の60%が実践	ICTの活用など探究的な授業を教員の60%が実践				
	実践的な避難訓練を通じた防災教育の充実	行動を伴う実践的な防災訓練を年2回以上実施	行動を伴う実践的な防災訓練を年2回以上実施				
通学途上の安全確保の取組	通学途上における怪我等における学校保険の適用数の減少	通学途上における怪我等における学校保険の適用数の減少					
学校における働き方改革	各学期に2回以上の定時退校日を設定	各学期に2回以上の定時退校日を設定					
3 働く意欲と働く力をはぐくむ	キャリア関連行事の充実	関連行事に3年間で1回以上関わる生徒の割合が100%	関連行事に3年間で1回以上関わる生徒の割合が100%				
		関連行事として、オープンキャンパス、大学探訪、大学研究会、インターンシップ、先輩に学ぶ会を適切な時期に企画	関連行事として、オープンキャンパス、大学探訪、大学研究会、インターンシップ、先輩に学ぶ会を適切な時期に企画				
4 地域と協働して活躍する人を育てる	広報活動の充実	学校行事や生徒の活動の様子及び育友会活動等の様子を伝える育友会活動の学校ホームページへの記載記事を充実する学校通信を年2回以上発刊	学校行事や生徒の活動の様子及び育友会活動等の様子を伝える育友会活動の学校ホームページへの記載記事を充実する学校通信を年2回以上発刊				
	地域連携センター平城山の取組の推進	関連行事に、3年間で1回以上関わる生徒の割合が70%以上	関連行事に、3年間で1回以上関わる生徒の割合が70%以上				
	グローバルマインドの育成	海外校との交流機会を年度2回確保し、参加生徒の満足度が90%以上	海外校との交流機会を年度2回確保し、参加生徒の満足度が90%以上				
5 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権教育の推進	「毎月11日は『人権を確かめ合う日』」を活用して、人権問題と自己の関わり方について考え、行動できる生徒が90%以上	「毎月11日は『人権を確かめ合う日』」を活用して、人権問題と自己の関わり方について考え、行動できる生徒が90%以上				
		人権学習ホームルームにおいて、その内容を理解し、教育活動を評価する生徒が90%以上	人権学習ホームルームにおいて、その内容を理解し、教育活動を評価する生徒が90%以上				
	人権教育の研究促進	教職員に対して、人権教育に関する研修機会の情報を広く知らせ、全体の90%以上の教職員が年間2回以上の研修会に参加	教職員に対して、人権教育に関する研修機会の情報を広く知らせ、全体の90%以上の教職員が年間2回以上の研修会に参加				
	学校いじめ防止方針等に基づく取組	「いじめのアンケート」で、「いじめられている」と回答する生徒の割合が前年度より減少	「いじめのアンケート」で、「いじめられている」と回答する生徒の割合が前年度より減少				
「こころと生活等に関するアンケート」で、「学校の先生に信頼できる。」「学校の先生は困ったときに助けてくれる。」という質問において、あてはまらないと回答する生徒の割合が10%以下		「こころと生活等に関するアンケート」で、「学校の先生に信頼できる。」「学校の先生は困ったときに助けてくれる。」という質問において、あてはまらないと回答する生徒の割合が10%以下					

※(E)(F)の評価基準は目標に対して A:十分に達成できた。 B:概ね達成できている。 C:改善点や課題がある。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

--